

47 期かなわなかった海旅完全復活を次こそ 「キラリと光るトラベル懇話会」への思いと共に



トラベル懇話会の第 47 期通常総会が 6 月 6 日、帝国ホテルで開催されました。第 47 期は期首の正会員数が 118 名、会員総数 144 名でしたが、期末（2025 年 3 月 31 日）には正会員数が 14 名増えて 132 名、会員総数も 158 名まで拡大。さらなる活動強化を支える体制が築かれつつあります。しかし海外旅行の完全復活は未だ実現しておらず、トラベル懇話会にとって最大の課題として、その実現は次期に持ち越された形です。4 年目となった百木田会長が掲げる「キラリと光るトラベル懇話会」のスローガンのもと、第 48 期の課題に取り組むトラベル懇話会への期待が高まります。



第 48 期役員（パーティー欠席者を除く）

第 47 期（2024 年 4 月～2025 年 3 月）通常総会の冒頭で百木田康二会長は、「2 年後にはトラベル懇話会の創設から 50 年の節目の年を迎えます。改めて会の伝統や意

義に強く感じるところがあります」と述べ、会長を務め丸 3 年が経過した現在の心境を説明。また「47 期は海外旅行完全復活を目指し JATA と一緒に取り組んできましたが、結果的に目標にはほど遠かったと言わざ

るを得ません」と無念さを挨拶に込めました。

そのうえで、「海外旅行者数の伸び悩みの理由として、経済的負担の大きさが指摘されますが、この点はそう簡単には変わらないはず。やはり旅行会社の存在価値を示して、さらなる発展をしていくほかありません」と厳しい環境の中で業界が目指すべき方向性について持論を展開しました。

また第47期の事業報告では、「海外旅行市場は、コロナ禍から徐々に戻りを見せているものの、そのスピードは極めて遅く、海外旅行者数は1300万人とコロナ前の65%しか回復せず、インバウンドの勢いと圧倒的な差が生じている。訪日旅行者3に対して海外旅行者1という、極めてバランスを欠いた観光市場となった」と1年間を振り返りました。しかし、それがきっかけとなって「観光行政の主要機関が国内、海外、訪日市場の三位一体の均衡がとれた発展の重要性を強く言及し、海外旅行の機運醸成に舵を切るようになった」とも指摘。観光行政が海外旅行促進の重要性に気がつく点に期待をにじませました。

ホームページ改修で外部発信も強化

通常総会は正会員出席数62名、委任状38の議決権数100で、議決権総数(正会員数)133の過半数をクリアして総会は成立。第一号議案「第47期事業報告書及び会計報告書について」の承認に続き、第二号議案「第48期の事業計画及び収支予算案に



ついて」承認されました。計画では、会員獲得目標としては正会員数135名(4月1日時点の正会員数127名に新会員8名を加えた135名)を掲げました。

また会員に向けてだけでなく一般の人たちへの発信力も強化する方針で、情報を見やすく整理するためにホームページの改修にも取り組むこととしました。具体的には、トラベル懇話会がどのような集まりなのか、広く興味や関心を持ってもらい活動内容も紹介できるホームページを目指すこととしました。

百木田会長が4年目も続投

第三号議案「役員の選任について」は、高橋誠一氏、中島しのぶ氏、永崎安基氏の3名の新任理事と8名の再任理事が承認され、任期中の理事11名・監事2名を含め合計24名の役員を決定。さらに総会後の理事会において百木田会長が第48期の会長に選ばれ、会長として4年目を迎えることになりました。なお理事会では、先頃休刊した観光業界専門誌「トラベルジャーナル」の長年にわたるトラベル懇話会への貢献に対し、感謝状と記念品を贈呈することも決めました。



第47期通常総会に続いて開催された第48期キックオフパーティーでは、挨拶に立った百木田会長が「会員は毎年増えて150名を超え、業界の期待を感じています。これを身のある活動につなげていければ」としたほか、「公認ではなく私の個人的な発案ですが、今期のスローガンを『キラリと光るトラベル懇話



会』として、いろいろある業界団体の中にあってもキラリと光る存在を皆様と一緒に作り上げていきましょう」と呼びかけました。



また来賓の観光庁の鈴木貴典審議官は「観光庁としても、インバウンドだけでなくアウトバウンドも含めた相互交流があって初めて持続可能な観光振興があると考え、皆様と一緒にアウトバウンド振興に取り組んでいきます」と約束。さらに「これからも高い水準の増加傾向が続くと思われるインバウンドに関しても、旅行業界がもっとマネタイズして事業収入につなげられる取り組みを、観光庁としてもお手伝いしていこうと考えています」と続けました。



JATA の高橋広行会長は現在展開中の「もっと！海外へ 宣言」プロジェクトについて、海外旅行アンバサダーの起用による広報戦略の強化などキャンペーン内容

を紹介するとともに、来年度に見直し時期を迎える「観光立国推進基本計画」への対応についても言及。「我々の要望を基本計画にどこまで盛り込めるかは、旅行業界の行く末を左右するもの。JATA で要望をまとめ国会議員や関係省庁に対するロビー活動を開始している」と報告。

要望の内容としては海外旅行の拡大と、そのためのパスポート取得費用の抜本の見直し、海外旅行離れが懸念される若者に対する国際教育強化とパスポート取得促進を求めるほか、「全国の児童生徒が国際交流に触れられるよう交流の必修化なども強く求めています」と説明しました。



乾杯の発声は原優二副会長。「小さな旅行会社は一点突破しかない。今度 JATA で直行便がないキルギスを視察しますが、旅行会社が活躍できるデスティネーションの一つだと思います。各社がチャーター便に挑戦して新デスティネーションとして開発できるはずです。さまざまなデスティネーションを開発しましょう」と挨拶、乾杯となりました。



退任する4理事を代表して坂元隆氏（左）に記念品を贈呈↑